

製品安全データシート（液体苛性カリ SDS）

1. 化学物質及び会社情報

化学物質等の名称 : 液体苛性カリ
会社名 : 本田薬品株式会社
本社住所 : 東京都葛飾区立石1丁目1番5号
事務所・工場住所 : 東京都葛飾区東四つ木4丁目34番5号
電話番号 : 03-3691-1870(代表)
FAX番号 : 03-3691-1903
推奨用途および使用上の制限 : 工業用原料

2. 危険有害性の要約

特定の危険有害性

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	: 分類できない
可燃性／引火性ガス	: 分類できない
可燃性／引火性エアゾール	: 分類できない
支燃性／酸化性ガス	: 分類できない
高圧ガス	: 分類できない
引火性液体	: 区分外
可燃性固体	: 分類できない
自己反応性化学品	: 分類できない
自然発火性液体	: 区分外
自然発火性固体	: 分類できない
自己発熱性化学品	: 分類できない
水反応可燃性化学品	: 分類できない
酸化性液体	: 分類できない
酸化性固体	: 分類できない
有機過酸化物	: 分類できない
金属腐食性	: 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性－経口 : 区分4

急性毒性－経皮	: 分類できない
急性毒性－吸入(気体)	: 分類できない
急性毒性－吸入(蒸気)	: 分類できない
急性毒性－吸入(粉塵/ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	: 区分1B
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	: 区分1
呼吸器感受性	: 分類できない
皮膚感受性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 区分外
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	: 区分1(呼吸器系)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	: 分類できない
吸引性呼吸器有害性	: 区分1
水生環境-急性有害性	: 分類できない
水生環境-慢性有害性	: 分類できない
オゾン層有害性	: 分類できない

ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- : 飲み込むと有害
重篤な皮膚の薬傷
眼の損傷
臓器(呼吸器系)の障害
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

安全対策

- : ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
・取扱い後は手をよく洗うこと。
・容器を密閉しておくこと。
・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
・粉じん、ヒューム、ガス、ミスト、蒸気、スプレー等を吸入しないこと。
・使用前に取扱説明書を入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
・個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
・環境への放出を避けること。

応急措置	<ul style="list-style-type: none"> ：・飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 ・特別な処置が必要である。 ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。つぎにコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けこと。 ・直ちに医師に連絡すること。 ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 ・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。 ・暴露または暴露の懸念がある場合、医師の手当てを受けること。 ・漏出物を回収すること。 ・皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てを受けること。 ・気分が悪い時は、医師の診断を受けること。 ・皮膚(または毛)にかかった場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 ・皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。
保管	<ul style="list-style-type: none"> ：・施錠して保管すること。 ・容器を密閉にして、直射日光を避け、換気の良い涼しいところで保管すること。
廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ：・内容物または容器を廃棄する場合は、都道府県の規則に従うこと。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分：

No.	成分名	CAS No.	化学式	含有率(%)
1	水酸化カリウム	1310-58-3	KOH	48%以上

No.	化審法 官報公示整理番号	安衛法 官報公示整理番号	安衛法通知物質	化管法
1	1-369	1-369	316	-

毒物及び劇物取締法：該当品

その他：危険有害成分：苛性カリ

4. 応急処置

吸入した場合：・直ちに医師による医療処置をうける。
・直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にし、できれば酸素吸入を行う。

- 皮膚に付着した場合 : ・汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐか、取り去る。
・触れた部分を大量の水を使用して十分に洗い落とす。
・直ちに医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : ・出来るだけ早く医師の診断を受けること。
・直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- 飲み込んだ場合 : ・意識があっても無理にはかせてはならない。
・口を水ですすぎ、速やかに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : ・不燃性。周辺の火災に適切な消火剤を使用する。
- 特有の消火方法 : ・移動可能な容器は、安全に行える限り火災場所から搬出する。
・苛性カリ水溶液は燃えない。
・タンクが火災により加熱されているときは、水噴霧で冷却する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・極めて腐食性が強いので、作業の際には必ず適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

環境に対する注意事項

- ・濃厚な排液が河川等に排出されないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法／機材

- ・土砂等に吸着させるか、または、土砂等でその流れを止めできるだけ容器に回収する。
- ・漏出した周囲にロープを張り、「立入禁止」措置を行う。
- ・回収した後、又は回収できない液は希塩酸、希硫酸等で中和した後、多量の水で洗い流す。中和の際に発熱し、飛沫が生ずることがあるので注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : ・取扱い後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
・眼や皮膚を腐食するので保護眼鏡、ゴム手袋、ゴム長靴等の保護具を必ず着用する。
・取扱場所の近くに緊急用の洗眼器や身体洗浄を行うための設備を設ける。
・充填又は引取りパイプ中に液を残さないようにする。
・希釈する場合や酸を中和する場合は、発熱を伴うので、攪拌しながら水酸化力

リウム水溶液を徐々に加える。逆に、水酸化カリウムの濃厚溶液に水や酸を加えると、突沸をおこす恐れがあるので極めて危険である。

注意事項 : ・ 漏れ、溢れ、飛散等しないように慎重に取り扱う。
・ 腐食性の強い不燃性液体。

安全取扱い注意事項 : ・ 特になし

保管

適切な保管条件 : ・ アルカリ性であるので、酸性物質と同じ場所に貯蔵または保管しない。
・ 空気中の湿気や炭酸ガスを吸収し、品位が低下するので密栓して保管する。
・ 気温が下がると凝固することがある。

安全な容器包装材料 : ・ ステンレス(ローリー)。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : ・ 装置は耐腐食性のある材質を用いて作ること。
・ 作業場所近くに、シャワー、手洗い及び洗眼の装置を取り付け、その位置を明確に表示する。
・ 屋内作業の場合は、作業者が直接暴露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にする。

安衛法 管理濃度 :

化学物質名	管理濃度
水酸化カリウム	未設定ppm

許容濃度

(日本産業衛生学会) :

化学物質名	T W A	Ceiling	皮膚	年度
水酸化カリウム	-	2 mg/m ³		2007

(ACGIH) :

化学物質名	T W A	S T E L	Ceiling	皮膚	年度
水酸化カリウム	-	-	2 mg/m ³		2011

保護具

呼吸器の保護具 : ・ 空気呼吸器を着用する。
手の保護具 : ・ ゴム製の手袋を着用する。
目の保護具 : ・ ゴーグル型を着用する。
皮膚及び身体の保護具 : ・ ゴム製保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など : 常温で無色又は灰色の液体で、濃度・温度により固化することがある。

臭い	: 無臭
pH	: データなし
沸点、初留点、沸騰範囲	: 140 °C
引火点	: 不燃性
自然発火温度(発火点)	: 不燃性
蒸気圧	: 0.41kPa(20°C)
比重(相対密度)	: 1.5g/cm ³ (15°C)
水に対する溶解性	: 易溶
溶媒に対する溶解性	: 情報なし
その他のデータ	: ・液体で、濃度、温度により固化することがある。 ・強アルカリ性。酸と反応し中和熱を発生する。 ・溶解時に発熱する。

10. 安定性及び反応性

安定性(危険有害反応可能性)

: ・安定性:法規制に従った保管及び取扱においては安定である。

反応性

: ・酸と反応し、中和熱を発生する。
 ・アルミニウム、スズ、亜鉛、クロム等の金属と反応し、可燃性の水素を発生し爆発することがあるので注意する。

危険有害な分解生成物: データなし

11. 有害性情報

急性毒性 : 水酸化カリウム LD50(経口) ラット 284 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性: 水酸化カリウム 区分1B

眼に対する重篤な損傷/刺激性

: 水酸化カリウム 区分1

特定標的臓器毒性(単回暴露)

: 水酸化カリウム 区分1(呼吸器)

吸引性呼吸器有害性: 水酸化カリウム 区分1

皮膚腐食性・刺激性: 皮膚 : ウサギ 50mg/24h 重度

ヒト 50mg/24h 重度(固形水酸化カリウム)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

: 眼 : ウサギ 1mg/24h 中等度

モルモット 50mg/24h 重度(固形水酸化カリウム)

生殖細胞変異原生: データなし

発がん性: 日本産業衛生学会、ACGIH、NTP、IARCのいずれにも記載なし。
 (以上固形水酸化カリウム)

人の健康に対する有害性

: この液体と接触すると、皮膚及び眼は重症の深部に達するただれを起こす。誤って飲み込めば、消化器官に広範囲の組織の破壊が起き、激痛、嘔吐声門水腫、ショック等の症状があらわれる。

その他

: 人についての症例接触による皮膚や粘膜の薬傷は、酸に比較してアルカリのたんぱく質に対する溶解性に基づくため、一般的には傷面は湿潤であり潰瘍は深くかつ進行しやすい。従って、酸による薬傷よりも重篤。蛋白質を溶解する力はNaOHより強くミスと吸入による化学性気道炎、皮膚や粘膜の接触による薬傷はNaOHより重篤。

12. 環境影響情報

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。

特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

魚毒性 : 水に溶けてアルカリ性を示す。水生生物にとって有害である。

残留性／分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

その他 : ・強アルカリ性で環境にとって有害である。
・漏洩したときは魚介類、動物及び植物に対して注意する。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 「毒物および劇物の廃棄の方法に関する基準」に従って処理をする。
・攪拌しながら、水を加えて希薄な水溶液として、酸(希塩酸、希硫酸等)で中和させた後多量の水で希釈して処理する。
・廃アルカリは特別管理産業廃棄物に指定されているので、収集・運搬・処分は定められた基準にしたがって処理すること。
・排気処理に伴う生成物については、水質汚濁防止法等諸関連法令に適合するよう十分留意しなければならない。

汚染容器・包装 : 容器等の廃棄物は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。

14. 輸送上の注意

国連番号 : UN1814

国連分類 : 8

容器等級 : II

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送 : 航空法の定めるところに従うこと。

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 荷役作業は慎重丁寧にし、容器に打撃や衝撃を与えないよう取り扱う。
- ・ 車両に積載する場合、酸類から遠ざける。また有機薬品の上に積み重ねてはならない。
- ・ 運送中は容器が横転しないように積載し、休憩時など盗難紛失に注意する。
- ・ ローリー又はコンテナの場合、充填又は払出時は保護眼鏡、ゴム手袋、保護衣等の保護具を着用し充填又は払出パイプ中に液を残さないようにする。
- ・ 5t以上の量を車両で運搬する場合は、交換運転者、標識、保護具、緊急時の措置を記載した書面等、毒劇物取締役法により定められた事項を順守すること。
- ・ 毒劇物法に定められる運送方法に従う。
- ・ 紛失に注意する。

その他 : 運搬に際しては、容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。

15. 適用法令

1) 毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法 劇物 水酸化カリウム(48%以上)

2) 労働安全衛生法 57 条の 2 通知対象物質

労働安全衛生法第57条の2 通知対象物質 水酸化カリウム(48%以上)

3) 外国為替及び外国貿易管理法

輸出貿易管理令別表第一 第16項 キャッチオール規制品目

4) 港則法

港則法 腐しよく性物質

5) その他の法令

化学物質管理促進法(PRTR 法) : 該当しない

船舶安全法 危告示 別表第3 腐食性物質

海洋汚染及び海上災害の防止に関する規則(海防法) 有害性物質(Y類物質)

航空法 腐食性物質

食品衛生法(食品添加物のみ適用)

16. その他情報

引用文献

1) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH) , 1999

2) 製品安全データシート「液体苛性カリ」日本ソーダ工業会(1993)

制約を受ける事項 : 本製品は工業用品であり、メディカル用途を想定して開発・製造を行ったものではありません。

SDSは事業者を対象とした文書です。

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等に利用される場合には、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。記載のデータや評価に関してはいかなる保証をするものではありません。

また、記載事項は通常の実用を対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合には新たな用途・用法に適した安全対策を実施した上、お取扱い願います。当製品の譲渡時には本SDSを添付してください。

SDSの内容に関するお問い合わせ先

本田薬品株式会社

T E L: 03-3691-1870

F A X: 03-3692-2961

緊急連絡先(本田薬品株式会社四つ木工場)

T E L: 03-3692-2961

F A X: 03-3696-4629